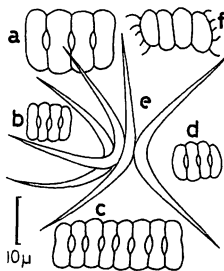


○ 山岸高旺: 日本産セネテスムス属種

Takaaki YAMAGISHI: Three species of *Scenedesmus* in Japan.

1. *Scenedesmus acuminatus* (LAGERH.) CHODAT var. *elongatus* SMITH, Trans. Amer. Micros. Soc. 45: 189 (1926). 細胞は細くて著しく長く、彎曲し、両端は刺状に細く伸びている。また、各細胞の配列は平面でなく不規則である。細胞の径は中央部で $2.5\sim 5\mu$ 、長さ $50\sim 65\mu$ 。SMITH (l.c.) は細胞両端間の距離が $24\sim 72\mu$ としているが、細胞によってその彎曲度が著しく異なるので、この変種の場合には先端間の距離ではその長さを正確に示すことにならない。しかし、SMITH の示している図の中のほとんど真直な細胞で測ってみると約 65μ である。東京・上野不忍池産。この変種は先に群馬・茂林寺沼から報告したが、細胞の形状は今回のものの方が、それよりも細長く、先端は繊細で SMITH の図示しているものに近い。世界的にみても稀産種で報告例は少ない。(図 e)



a~d: *Scenedesmus balatonicus*,
e: *S. acuminatus* var. *elongatus*,
f: *S. spicatus*.

2. *S. spicatus* WEST & WEST, Journ. Bot. 36: 335 (1898). Syn. *S. abundans* (KIRCH.) Chodat var. *spicatus* (WEST & WEST) SMITH, Trans. Wisc. Acad. Sci. Arts & Lett. 18: 468 (1916). 細胞は細長い広楕円形~楕円形で径 $3.5\sim 4.5\mu$ 、長さ $8.5\sim 10\mu$ 。両端細胞の外縁には $3\sim 5$ 本の長さ $2\sim 3\mu$ のやや彎曲した細い刺状突起が並んでいる。中間細胞の両端にも $1\sim 2$ 本の刺状突起をもつものもある。東京・不忍池産。この種も埼玉・岩槻から報告したが、細胞の形状や外縁の刺状突起の形状は今回のものの方が WEST & WEST や SMITH のものに近い。(図 f)

3. *S. balatonicus* HORTOBAGYI; UHERKOVICH, Scene. Ung., 50 (1966). 細胞は径 $2.5\sim 5\mu$ 、長さの細 $2.5\sim 5\mu$ 、長さ $7\sim 14\mu$ の細長い広楕円形で中央部が細くなっているために細胞間に紡錘形の間隙がある。各細胞は平面上に配列するが、群体が $8\sim 16$ 細胞から成る長いものではやや捻れているものもある。東京・不忍池産。稀産種である。(図 a~d)